

## 台頭する右翼政党に対峙するドイツの「過去を想起する文化」

梶村道子(ベルリン・女の会)

ナチズムの犯罪を記憶し、被害者を追悼する行為は、「想起する文化」と呼ばれています。「想起する文化」は、各地の多様な記念館や記念碑、記念の日とその式典を包括するもので、それらを担う組織も国、州政府から地域の市民団体まで様々です。その「想起する文化」の要の一つといえるのが、ヴァンゼー会議記念教育館です。1942年の1月20日、ナチ政権の高官とナチ親衛隊幹部15人が、ベルリン郊外のこの瀟洒な館で、ホロコーストの遂行を組織間で調整するための会議をもちました。

ヴァンゼー会議75年目の今年、1月19日に同記念館で開かれた式典は、ホロコーストを記憶し続けることがドイツ社会の存立にいかにか重要であるかを、いつにもまして強調する機会となりました。というのも2日前の1月17日に、右翼政党「ドイツの選択肢」のチューリンゲン州議会議員団代表で極右政治家のビョルン・ヘッケ氏が、党青年組織の集会で、「想起する文化」を真っ向から否定する演説

をしたからです。「ドイツ人は、恥の記念碑を首都の中心地に植え付けた世界で唯一の国民」、「ドイツに必要なのは、想起の政治の180度転換だ」と。「ドイツの選択肢」は、旧東独を中心に党勢を拡大、西部ドイツの州議会にも進出し、今年9月の連邦議会選挙でも初の議席獲得が確実視されています。そして極右層への浸透をヘッケ氏のような党内右派が引き受けているのです。

式典で政府を代表して挨拶に立ったグリュッター文化担当国務相は、「ドイツの社会と民主主義は想起する文化に依って成熟を遂げてきました、その想起する文化を新興政治勢力が党利党略に濫用するのは、許しがたくおぞましいことです」と指弾し、議会を代表して挨拶したラムメルト連邦議会議長も、「ホロコーストは、ドイツという国の設立基盤をなす、書かれてはいないが消すことのできない証書であり、基本法(注：ドイツの憲法)もまたホロコースト抜きにはありえません」

と語りました。これが、ヘッケ氏の扇動的な発言へのドイツの行政府と立法府の返事です。

長い年月をかけて培われた「想起する文化」は、東西統一後のドイツ社会のアイデンティティーとなり、ナチスの犯罪とその教訓を記憶し続けることは、国の責務となっています。欧州ユダヤ人の殺害が国の官僚機構の中で机上の業務により機能しえたという事実を記憶し続けることは、「現在の民主主義と法治主義を守るための義務」(ヴァンゼー会議記念教育館ヤッシュ館長)なのです。ヘッケ氏の扇動発言で揺らぐようなものではありません。

1週間後の1月27日は「ナチズムの犠牲者追悼の日」でしたが、ヘッケ氏は、チューリンゲン州議会の式典への参加を拒否され、またプーヘンヴァルト強制収容所記念館からも、歓迎されない人物として、入館を禁じられました。

この日、連邦議会の式典では、「安楽死」の名の下に殺害された約30万人の障害者の追悼が行われました。「安楽死」の犠牲者は長い間顧みられることなく、T4作戦とよばれる障害者殺害計画の本部跡地に記念の碑ができたのは、2014年のことでした。ラムメルト議長は、「基本法第1条は『人間の尊厳は不可侵である』と規定しています。しかし人間の尊厳が侵され得ることを、歴史は、特にドイツは徹底して証明しました。だからこそ基本法第1条は、人が生存権を二度と再び侵されることのないように、我々の行為の妥協不可能な規範であり続けねばならないのです」と述べ、基本法の根幹にナチズムへの痛烈な反省があることを改めて確認しています。

「ナチズムの犠牲者追悼の日」に因んだ催しは、今年もドイツの各地で開かれました。それらは、州議会や地方自治体、強制収容所記念館での式典に限られません。「安楽死」に加担した修道院での追悼祭、教会グループが主催する討論会、政党青年組織や市民有志が地方の小都市で行う「蹟きの石」を磨くアクション、あるいは学校生徒による劇の上演と、実に多様です。フランス、オランダ、イギリスと、欧州の中枢でも右派ポピュリズムが勢力を増す中、この「想起する文化」の裾野の広さが、ドイツの民主主義を支えていると言えるでしょう。

「ナチズムの犠牲者追悼の日」に因んだ催しは、今年もドイツの各地で開かれました。それらは、州議会や地方自治体、強制収容所記念館での式典に限られません。「安楽死」



ヴァンゼー会議記念教育館は国とベルリン州が出資する公益法人。1992年に開館して以降、ヴァンゼー会議の歴史を展示し、警察官などの公務員、各種職業集団、学校の初級から上級まで、幅広く個別に対応する政治教育プログラムを提供してきた。(写真：ヴァンゼー会議記念教育館ウェブサイトより)



ヴァンゼー会議75年式典で挨拶するグリュッター文化担当国務相。(写真：バイエルン放送より) [https://www.youtube.com/watch?v=CDjU\\_EulAWI](https://www.youtube.com/watch?v=CDjU_EulAWI)



ベルリン・フィルハーモニーの隣の「安楽死」犠牲者の追悼および情報提供の場。青いガラス壁の手前には、写真や文字、映像で構成された常設野外展示がある。(撮影：筆者)